

令和4年度 保健体育科体育シラバス

中部農林高等学校

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択
体育	3単位	1年	全	必修

1. 概要および目標

各種の運動の合理的な実践を通して運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るようになるとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、健康・安全に留意し、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動ができる資質や能力を身につける。

- (1)学習規律(約束事やルールを守る態度)の確立
- (2)運動ができるようになるための方法を身につける
- (3)体力の向上(低下傾向にある体力を向上させる)

2. 成績評価

- (1)毎時間の授業の中で、評価の3つの観点「知識・技能（技術）」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を個人カードやグループノート、行動観察、自己評価、相対評価等を用いて評価を行う。
- (2)各種目の楽しさや成果、課題について総括的に評価する。
*各種目を(1)～(2)の評価で行い、特に日々の過程を重視し、また、個々の伸び率も十分に考慮していく。

知識・技能（技術） 1	思考・判断・表現 1	主体的に学習に取り組む態度 1
-------------	------------	-----------------

< 評価観点の内容 >

a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	C. 運動の技能
①運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとしているか。 ②公正、協力、責任などの社会的態度が身に付いているか。 ③健康や安全に留意して運動しようとしているか。	①自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出しているか。 ②課題解決めざして、活動の仕方を考え工夫しているか。	①自己の能力と運動の特性に応じた課題解決をめざして運動を行い技能高めているか。 ②自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動の行い方を身につけているか ③運動技術のしくみと運動の学び方について理解できているか。

3. 使用教科書・教材

- ・教科書 : 大修館書店「最新高等保健体育」「評価問例題集」「最新スポーツルール」
- ・教材 : 各種目別用具一式

令和4年度 保健体育科体育シラバス

中部農林高等学校

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択
体育	2単位	2年	全	必修

1. 概要および目標

各種の運動の合理的な実践を通して運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るようになるとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、健康・安全に留意し、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動ができる資質や能力を身につける。

- (1)学習規律(約束事やルールを守る態度)の確立
- (2)運動ができるようになるための方法を身につける
- (3)体力の向上(低下傾向にある体力を向上させる)

2. 成績評価

- (1)毎時間の授業の中で、評価の4つの観点(①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能 ④知識・理解)を個人カードやグループノート、行動観察、自己評価、相対評価等を用いて評価を行う。
- (2)各種目の楽しさや成果、課題について総括的に評価する。
*各種目を(1)~(2)の評価で行い、特に日々の過程を重視し、また、個々の伸び率も十分に考慮していく。

関心・意欲・態度	30%	思考・判断	20%	技能	40%	知識・理解	10%
----------	-----	-------	-----	----	-----	-------	-----

<評価観点の内容>

a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	C. 運動の技能	d. 知識・理解
①運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとしているか。 ②公正、協力、責任などの社会的態度が身に付いているか。 ③健康や安全に留意して運動しようとしているか。	①自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出しているか。 ②課題解決めざして、活動の仕方を考え工夫しているか。	①自己の能力と運動の特性に応じた課題解決をめざして運動を行い技能高めているか。 ②自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動の行い方を身につけているか	①運動技術のしくみと運動の学び方について理解できているか。

3. 使用教科書・教材

- ・教科書 : 大修館書店「最新高等保健体育」「評価問例題集」「最新スポーツルール」
- ・教材 : 各種目別用具一式

4. 授業の展開と形態

2学級と3学級(40名×2)(40名×3)の合同クラスを編成し、男女に分かれて展開する。但し、集団行動及び持久走は男女共習

5. 学習方法

- ・年度初めに高校での体育学習についてのオリエンテーションを行う。
- ・授業は年間計画表に従って行い、別紙に示した学習のねらいで実施していく。

6. 学習計画表

【男子】

学期	月	学習種目		体育的行事
一学期	4	オリエンテーション・体づくり運動 (7時間)	体育理論 (2時間)	新体力テスト
	5	球技・器械運動選択(11時間) (バレー・バスケ・卓球・サッカー		
	6	ソフトボール・マット運動)	高校総体	
	7	水泳(11時間)	体育理論 (1時間)	
二学期	9			新人大会 創立記念マラソン
	10	球技選択(13時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト	体育理論 (1時間)	
	11	サッカー・バドミントン)		
	12	陸上競技(長距離走)(8時間)		
三学期	1	球技選択(7時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト	体育理論 (2時間)	
	2	サッカー・バドミントン)		
	3	武道・ダンス選択(7時間) (現代的なリズムのダンス 創作ダンス)		
時間数		64時間	6時間	計70時間

【女子】

学期	月	学習種目		体育的行事
一学期	4	オリエンテーション・体づくり運動 (7時間)	体育理論 (2時間)	新体力テスト
	5	水泳 (11時間)		
	6		高校総体	
	7	球技・器械運動選択 (11時間) (バレー・バスケ・卓球・サッカー ソフトボール・マット運動)	体育理論 (1時間)	
二学期	9			
	10	球技選択 (13時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト サッカー・バドミントン)	体育理論 (1時間)	新人大会
	11			
	12	陸上競技 (長距離走) (8時間)		創立記念マラソン
三学期	1	球技選択 (7時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト サッカー・バドミントン)	体育理論 (2時間)	
	2	武道・ダンス選択 (7時間) (現代的なリズムのダンス 創作ダンス)		
	3			
時間数		64時間	6時間	計70時間

種目と学習のねらいおよび評価の観点

運動領域	種目	学習目標・学習内容	評価観点
体づくり 運動	体ほぐしの運動 体力を高める 運動	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体に関心を持ち、体力や生活に応じた自分の課題を決めて体ほぐしをしたり、体力を高めたりするとともに生活の中で実践するようにする。 体ほぐしの運動がリラクゼーションや気分転換、疲労回復、ストレス解消等、体を整える効果があることを実践を通して体験する。 	a, d c

水 泳	クロール 平泳ぎ 背泳ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じて練習し、運動の技能を高め、速く泳いだり、続けて長く泳いだりできるようにする。 ・全く泳げない生徒に関しては、一斉指導を中心に進めていく。 ・安全面や学習効率などの点から、適切なグループ(少なくとも2人1組となりお互いを補助し、協力し合うバティシステムを取り入れる)を設定して活動する。 ・初め・中・終わりに記録を計測し、自分(グループ)の上達度を確認する。 	c b a, c a
球 技	バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球 ハンドボール ソフトボール サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや練習の時に、チームの課題や自分の力に応じて運動の技能を高め、作戦を立てて攻めたり守ったりできるようにする ・技能の段階や経験に応じてチームを編成し、チームにおける役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力しながら練習やゲームができるようにする。 ・ゲームでは、審判の判定に従いルールを守って最善を尽くし、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。 	b, c a a, c, d
武 道	空手道	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の伝統文化である空手の普及型Ⅰ・Ⅱを中心に指導する。 ・自分の力に応じて技能を高め、相手の動きに対応して攻めたり守ったりできるようにする。 	d a, c
ダンス	創作ダンス フォークダンス 現代的なリズムのダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じて課題を持って運動を行い感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりして、仲間と交流して発表できるようにする。 	a, b, c

陸上	長距離走	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じて練習をし、運動の技能を高め、続けて長く走れるようにする。 ・一定のペースを守りながら走れるようにする。 ・上下動、左右動のない正しいフォームで走れるようにする。 	<p>b</p> <p>c, d</p>
体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの文化的特徴 ・運動・スポーツの学び方 ・豊かなスポーツライフの設計 		<p>a, b, c</p> <p>b</p> <p>d</p>

令和4年度 保健体育科体育シラバス

中部農林高等学校

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択
体育	2単位	3年	全	必修

1. 概要および目標

各種の運動の合理的な実践を通して運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るようになるとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、健康・安全に留意し、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動ができる資質や能力を身につける。

- (1)学習規律(約束事やルールを守る態度)の確立
- (2)運動ができるようになるための方法を身につける
- (3)体力の向上(低下傾向にある体力を向上させる)

2. 成績評価

- (1)毎時間の授業の中で、評価の4つの観点(①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能 ④知識・理解)を個人カードやグループノート、行動観察、自己評価、相対評価等を用いて評価を行う。
- (2)各種目の楽しさや成果、課題について総括的に評価する。
*各種目を(1)~(2)の評価で行い、特に日々の過程を重視し、また、個々の伸び率も十分に考慮していく。

関心・意欲・態度	30%	思考・判断	20%	技能	40%	知識・理解	10%
----------	-----	-------	-----	----	-----	-------	-----

<評価観点の内容>

a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	c. 運動の技能	d. 知識・理解
①運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとしているか。 ②公正、協力、責任などの社会的態度が身に付いているか。 ③健康や安全に留意して運動しようとしているか。	①自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出しているか。 ②課題解決めざして、活動の仕方を考え工夫しているか。	①自己の能力と運動の特性に応じた課題解決をめざして運動を行い技能高めているか。 ②自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動の行い方を身につけているか	①運動技術のしくみと運動の学び方について理解できているか。

3. 使用教科書・教材

- ・教科書 : 大修館書店「最新高等保健体育」「評価問例題集」「最新スポーツルール」
- ・教材 : 各種目別用具一式

4. 授業の展開と形態

2学級と3学級(40名×2)(40名×3)の合同クラスを編成し、男女に分かれて展開する。但し、集団行動及び持久走は男女共習

5. 学習方法

- ・年度初めに高校での体育学習についてのオリエンテーションを行う。
- ・授業は年間計画表に従って行い、別紙に示した学習のねらいで実施していく。

6. 学習計画表

【男子】

学期	月	学習種目		体育的行事
一学期	4	オリエンテーション・体づくり運動 (7時間)	体育理論 (2時間)	新体力テスト
	5	球技・器械運動選択(11時間) (バレー・バスケ・卓球・サッカー		
	6	ソフトボール・マット運動)		高校総体
	7	水泳(11時間)	体育理論 (1時間)	
二学期	9			
	10	球技選択(13時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト	体育理論 (1時間)	新人大会
	11	サッカー・バドミントン)		
	12	陸上競技(長距離走)(8時間)		創立記念マラソン
三学期	1	球技選択(14時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト	体育理論 (2時間)	
	2	サッカー・バドミントン)		
	3			
時間数		64時間	6時間	計70時間

【女子】

学期	月	学習種目		体育的行事
一学期	4	オリエンテーション・体づくり運動 (7時間)	体育理論 (2時間)	新体力テスト 高校総体
	5	水泳 (11時間)		
	6			
	7	球技・器械運動選択 (11時間) (バレー・バスケ・卓球・サッカー ソフトボール・マット運動)	体育理論 (1時間)	
二学期	9	球技選択 (13時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト サッカー・バドミントン)	体育理論 (1時間)	新人大会 創立記念マラソン
	10			
	11			
	12	陸上競技 (長距離走) (8時間)		
三学期	1	球技選択 (14時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト サッカー・バドミントン)	体育理論 (2時間)	
	2			
	3			
時間数		64時間	6時間	計70時間

種目と学習のねらいおよび評価の観点

運動領域	種目	学習目標・学習内容	評価観点
体づくり運動	体ほぐしの運動 自力を高める 運動	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体に関心を持ち、体力や生活に応じた自分の課題を決めて体ほぐしをしたり、体力を高めたりするとともに生活の中で実践するようにする。 体ほぐしの運動がリラクゼーションや気分転換、疲労回復、ストレス解消等、体を整える効果があることを実践を通して体験する。 	a, d c

水 泳	クロール 平泳ぎ 背泳ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じて練習し、運動の技能を高め、速く泳いだり、続けて長く泳いだりできるようにする。 ・全く泳げない生徒に関しては、一斉指導を中心に進めていく。 ・安全面や学習効率などの点から、適切なグループ(少なくとも2人1組となりお互いを補助し、協力し合うバティシステムを取り入れる)を設定して活動する。 ・初め・中・終わりに記録を計測し、自分(グループ)の上達度を確認する。 	c b a, c a
球 技	バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球 ハンドボール ソフトボール サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや練習の時に、チームの課題や自分の力に応じて運動の技能を高め、作戦を立てて攻めたり守ったりできるようにする ・技能の段階や経験に応じてチームを編成し、チームにおける役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力しながら練習やゲームができるようにする。 ・ゲームでは、審判の判定に従いルールを守って最善を尽くし、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。 	b, c a a, c, d
武 道	空手道	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の伝統文化である空手の普及型Ⅰ・Ⅱを中心に指導する。 ・自分の力に応じて技能を高め、相手の動きに対応して攻めたり守ったりできるようにする。 	d a, c
ダンス	創作ダンス フォークダンス 現代的なリズムのダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じて課題を持って運動を行い感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりして、仲間と交流して発表できるようにする。 	a, b, c

陸上	長距離走	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じて練習をし、運動の技能を高め、続けて長く走れるようにする。 ・一定のペースを守りながら走れるようにする。 ・上下動、左右動のない正しいフォームで走れるようにする。 	<p>b</p> <p>c, d</p>
体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの文化的特徴 ・運動・スポーツの学び方 ・豊かなスポーツライフの設計 		<p>a, b, c</p> <p>b</p> <p>d</p>

令和4年度 保健体育科保健シラバス

中部農林高等学校

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択
保健	1	1学年	全学期	必修

1 概要および目標

現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方などについて学習することにより、健康的な生活習慣を身に付け、健康に好ましい環境をつくるための知識や能力を高めていく。

2 成績評価

(1) 定期テスト

学期ごとに期末考査を実施する。(計3回)

(2) 小テスト

授業の中で前時の復習も兼ねて小テストを実施し、学習意欲の向上を図る。

(3) 提出物

学期ごとにノート提出を行う。

長期休暇等においては課題の提出を課す。

(4) 授業

意欲・態度、発問への主体的な姿勢を評価する。

知識・技能	1	思考・判断・表現	1	主体的に学習に取り組む態度	1
-------	---	----------	---	---------------	---

観 点	学習活動に即した評価規準		
	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C)
ア 知識 ・ 技能	①自ら関心を持ち意欲的に学習しようとしている。 ②発問に対して自ら答えを考え発言することができる。 ③課題解決に向けて話し合いに取り組んでいる。	①自ら進んで学習しようとしている。 ②発問に対して答えを考えたことができる。 ③課題解決に向けて取り組んでいる。	①教師が促すと活動に参加する。 ②発問に対してはっきりと答えることができない。 ③仲間の話し合いに参加できない。
イ 思考 ・ 判断 ・ 表現	①課題に対しグループで話し合い必要な情報を比較したり、分析することができる。 ②内容を理解し、自分の考えをはっきりと言える。	①課題に対し必要な情報を比較したり、分析することができる。 ②自分の考えを言える。	①課題に対して、しっかり取り組まない。 ②自分の考えをはっきりと答えられない。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ウ主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>①本時の内容について自ら考え、理解することができる。</p> <p>②課題に対して、グループで話し合い資料を整理し、分類することができる。</p> <p>③授業内容に対し、仲間と意見を交わし発言したり書き出すことができる。</p>	<p>①本時の内容について理解している。</p> <p>②課題に対して、資料を整理し、分類することができる。</p> <p>③授業内容に対し、発言したり書き出すことができる。</p>	<p>①本時の内容について理解していない。</p> <p>②課題に対して、資料の整理や分類することができない。</p> <p>③授業内容に対し、参加しない。</p>
---	--	---	--

3 使用教科書・教材

- ・教科書 : 第一学習社「高等学校保健体育」
- ・副教材 : 第一学習社「学習内容のまとめと確認 保健体育ノート」

4 授業の展開と形態

HR 単位の一斉授業

5 学習方法

- (1) 年度初めに保健学習についてのオリエンテーションを行う。
- (2) 授業は進度表に従って行い、適宜課題や小テストを実施する。
- (3) 授業は講義形式だけではなく、学習内容に応じてロールプレイング、ディスカッション、ディベート、実習等も適宜活用していく。

令和4年度保健年間学習指導計画

期	章	節	内 容
1 学 期	第1章 現代 社会と健康	第1節 健康の考え方 第2節 現代の感染症とそ の予防 第3節 生活習慣病などの 予防と回復	①国民の健康水準の向上と変化する健康課題 ②健康の保持増進とヘルスプロモーション ①感染症の予防 ②性感染症とその予防 ①生活習慣病の予防 ②食事と健康
2 学 期		第4節 喫煙、飲酒、薬物乱 用と健康 第5節 精神疾患の予防と 回復	③健康と運動・休養・睡眠 ④がんの発生と予防 ①喫煙と健康 ②飲酒と健康 ③薬物乱用とその防止 ①脳と神経の働き ②欲求不満と適応機制 ③心の健康と精神疾患 ④精神疾患の予防と回復のために
3 学 期	第2章 安全 な社会生活	第1節 安全な社会づくり 第2節 応急手当	①交通事故と安全の確保 ②安全・安心な社会づくり ①適切な応急手当の手順 ②心肺蘇生法の実践 ③日常的な応急手当

令和4年度 保健体育科保健シラバス

中部農林高等学校

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択
保健	1	2学年	全学期	必修

1 概要および目標

現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方などについて学習することにより、健康的な生活習慣を身に付け、健康に好ましい環境をつくるための知識や能力を高めていく。

2 成績評価

(1) 定期テスト

学期ごとに期末考査を実施する。(計3回)

(2) 小テスト

授業の中で前時の復習も兼ねて小テストを実施し、学習意欲の向上を図る。

(3) 提出物

学期ごとにノートの提出を行う。

長期休暇等においては課題の提出を課す。

(4) 授業

意欲・態度、発問への主体的な姿勢を評価する。

定期テスト	60%	観点別評価	20%	授業・提出物	20%
-------	-----	-------	-----	--------	-----

観 点	学習活動に即した評価規準		
	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C)
ア 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	①自ら関心を持ち意欲的に学習しようとしている。 ②発問に対して自ら答えを考え発言することができる。 ③課題解決に向けて話し合いに取り組んでいる。	①自ら進んで学習しようとしている。 ②発問に対して答えを考慮することができる。 ③課題解決に向けて取り組んでいる。	①教師が促すと活動に参加する。 ②発問に対してははっきりと答えることができない。 ③仲間の話し合いに参加できる。
イ 思 考 ・ 判 断	①課題に対しグループで話し合い必要な情報を比較したり、分析することができる。 ②内容を理解し、自分の考えをはっきりと言える。	①課題に対し必要な情報を比較したり、分析することができる。 ②自分の考えを言える。	①課題に対して、しっかり取り組まない。 ②自分の考えをはっきりと答えられない。

ウ 知 識 ・ 理 解	①本時の内容について自ら考え、理解することができる。	①本時の内容について理解している。	①本時の内容について理解していない。
	②課題に対して、グループで話し合い資料を整理し、分類することができる。	②課題に対して、資料を整理し、分類することができる。	②課題に対して、資料の整理や分類することができない。
	③授業内容に対し、仲間と意見を交わし発言したり書き出すことができる。	③授業内容に対し、発言したり書き出すことができる。	③授業内容に対し、参加しない。

3 使用教科書・教材

- ・教科書 : 大修館書店「最新高等保健体育」
- ・副教材 : 大修館書店「最新高等保健体育ノート」

4 授業の展開と形態

HR単位の一斉授業

5 学習方法

- (1) 年度初めに保健学習についてのオリエンテーションを行う。
- (2) 授業は進度表に従って行い、適宜課題や小テストを実施する。
- (3) 授業は講義形式だけではなく、学習内容に応じてロールプレイング、ディスカッション、ディベート、実習等も適宜活用していく。

6 その他(履修上の注意)

成績評価は、定期考査、観点別評価、提出物等を重点に見ていくが、勤怠状況も成績に加味する。

令和4年度保健年間学習指導計画

単元	内 容	学 習 目 標・学 習 内 容	評価観点	時数
	2単元 生涯を通じる健康 (2学年)			
4月	①思春期と健康	○思春期における体の変化について説明できる。 ○思春期の心の発達にかかわる健康課題が説明できる。	ア、ウ ウ	2
5月	②性への関心・欲求と性行動	○性意識の男女差を、具体例をあげて説明できる。 ○性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる。	イ、ウ ア	3
	③妊娠・出産と健康	○妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ○妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。	ウ、イ ウ	2
6月	④避妊法人工妊娠中絶	○家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ○人工妊娠中絶が女性の心身におよぼす影響について説明できる。	ア、イ	3
	⑤結婚生活と健康	○心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ○結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。	ア、ウ イ	3
7月	⑥中高年期と健康	○年をとることにとまなう心身の変化には、どのようなものがあるか説明できる。	ア	2
9月		○中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて説明でき	ウ	

	⑦医薬品とその活用	る。 ○医薬品の正しい使用法について説明できる。 ○医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。	ア イ	2
10月	⑧医療サービスとその活用	○さまざまな医療機関の役割について説明できる。 ○医療サービスを受けるときの留意点をあげることができる。	イ ウ	2
	⑨保健サービスとその活用	○保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ○保健サービスの活用例の例をあげることができる。	ア ウ	1
	⑩さまざまな保健活動や対策	○民間機関・国際機関などの保健活動や対策について例をあげて説明できる。	ア	1
	3 単元 社会生活と健康			
11月	①大気汚染と健康	○大気汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ○地球規模の環境問題について、例をあげて説明できる。	イ ウ	2
	②水質汚濁、土壌汚染と健康	○水質汚濁の原因とその健康影響を説明できる。 ○土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。	イ ウ	2
12月	③環境汚染を防ぐ取り組み	○こんにちの環境汚染の特徴について説明できる。 ○環境汚染を防ぐためのさまざまな取り組みについて例をあげて説明できる。	ア ウ	2
	④ごみの処理と上下水道の整備	○ごみ処理の現状や、その課題について説明できる。 ○安全で質のよい水を確保するためのしくみと、説明できる。	イ ア	2
1月	⑤食品の安全を守る活動	○行政や生産・製造者による食品の安全のための対策について、例をあげ	イ	2

2月	⑥働くことと健康	<p>て説明できる。</p> <p>○食品の安全のため、私たち消費者がおこなうべきことを例をあげて説明できる。</p> <p>○働く人の健康問題が、どのように変化してきたかを説明できる。</p> <p>○労働災害の防ぎ方について説明できる。</p>	ウ ア イ	2
3月	⑦働く人の健康づくり	<p>○職場がおこなう健康増進について例をあげて説明できる。</p> <p>○余暇の大切さと活用の仕方について説明できる。</p>	イ、ウ ア	2
			計 3 5	

4. 授業の展開と形態

2学級と3学級(40名×2)(40名×3)の合同クラスを編成し、男女に分かれて展開する。但し、集団行動及び持久走は男女共習

5. 学習方法

- ・年度初めに高校での体育学習についてのオリエンテーションを行う。
- ・授業は年間計画表に従って行い、別紙に示した学習のねらいで実施していく。

6. 学習計画表

【男子】

学期	月	学習種目	体育的行事	
一学期	4	オリエンテーション・体づくり運動 (10時間)	新体力テスト 高校総体	
	5	球技・器械運動選択(18時間) (バレー・バスケ・卓球・サッカー ソフトボール・マット運動)		体育理論 (2時間)
	6			
	7	水泳(17時間)		体育理論 (1時間)
二学期	9		新人大会 創立記念マラソン	
	10	球技選択(20時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト サッカー・バドミントン)		体育理論 (1時間)
	11			
	12	陸上競技(長距離走)(12時間)		
三学期	1	球技選択(12時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト サッカー・バドミントン)	体育理論 (2時間)	
	2			
	3	ダンス選択(10時間) (現代的なリズムのダンス 創作ダンス)		
時間数		99時間	6時間	計105時間

【女子】

学期	月	学習種目		体育的行事
一学期	4	オリエンテーション・体づくり運動 (10時間)	体育理論 (2時間)	新体力テスト
	5	水泳 (18 時間)		
	6		高校総体	
	7	球技・器械運動選択 (17 時間) (バレー・バスケ・卓球・サッカー ソフトボール・マット運動)	体育理論 (1 時間)	
二学期	9			新人大会
	10	球技選択 (20 時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト サッカー・バドミントン)	体育理論 (1 時間)	
	11			
	12	陸上競技 (長距離走) (12時間)		
三学期	1	球技選択 (12 時間) (バスケ・バレー・卓球・ソフト サッカー・バドミントン)	体育理論 (2 時間)	
	2	ダンス選択 (10 時間)		
	3	(現代的なリズムのダンス 創作ダンス)		
時間数		99時間	6時間	計105時間

種目と学習のねらいおよび評価の観点

運動領域	種 目	学 習 目 標・学 習 内 容	評価観点
体づくり 運動	体ほぐしの運動 体力を高める 運動	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体に関心を持ち、体力や生活に応じた自分の課題を決めて体ほぐしをしたり、体力を高めたりするとともに生活の中で実践するようにする。 体ほぐしの運動がリラクゼーションや気分転換、疲労回復、ストレス解消等、体を整える効果があることを実践を通して体験する。 	a c

水 泳	クロール 平泳ぎ 背泳ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じて練習し、運動の技能を高め、速く泳いだり、続けて長く泳いだりできるようにする。 ・全く泳げない生徒に関しては、一斉指導を中心に進めていく。 ・安全面や学習効率などの点から、適切なグループ(少なくとも2人1組となりお互いを補助し、協力し合うバティシステムを取り入れる)を設定して活動する。 ・初め・中・終わりに記録を計測し、自分(グループ)の上達度を確認する。 	c b a, c a
球 技	バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球 ハンドボール ソフトボール サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや練習の時に、チームの課題や自分の力に応じて運動の技能を高め、作戦を立てて攻めたり守ったりできるようにする ・技能の段階や経験に応じてチームを編成し、チームにおける役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力しながら練習やゲームができるようにする。 ・ゲームでは、審判の判定に従いルールを守って最善を尽くし、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。 	b, c a a, c
武 道	空手道	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の伝統文化である空手の普及型Ⅰ・Ⅱを中心に指導する。 ・自分の力に応じて技能を高め、相手の動きに対応して攻めたり守ったりできるようにする。 	c a, c
ダンス	創作ダンス フォークダンス 現代的なリズムのダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じて課題を持って運動を行い感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりして、仲間と交流して発表できるようにする。 	a, b, c

陸上	長距離走	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じて練習をし、運動の技能を高め、続けて長く走れるようにする。 ・一定のペースを守りながら走れるようにする。 ・上下動、左右動のない正しいフォームで走れるようにする。 	b c
体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの文化的特徴 ・運動・スポーツの学び方 ・豊かなスポーツライフの設計 		a, b, c b d